

題名 セミの羽化を見る

1．学習のねらい

夕暮れ時、保護者同伴で学校や近くの公園などに集まり、セミの羽化を観察します。

（1）セミが生息できる環境について学ぶことができます。

セミは長い年月を地中で暮らし、やがて地上に出て、子孫を残してその一生を終わります。周辺に樹木が多く、長い間、地面を掘り返すような大工事がなく、舗装されていない地面が残されているなどの条件が揃わないとセミは生息できません。

（2）生命の力強さ、尊さに触れることができます。

不器用に見える仕草で地面を歩き、ゆっくりゆっくりと木にのぼり、踏ん張って羽化を始めるそのけなげな姿は、見るもの全てを感動させます。中には、羽化に失敗し、体が抜けきらない間に体の硬化が始まったり、完全に体が抜けたのにそのまま落下したりして、それまでの地中での生活が無駄になってしまうこともあります。翌日にはアリが群がり、瞬く間に分解されていきます。こんなドラマは、自然界でなければ目の当たりにすることができません。

2．実施について

（1）実施時期：梅雨明けが近づいた頃で、雨が降らない蒸し暑い夕方。

（2）実施場所：校庭または近くの公園など

（3）指導時間：夕刻から羽化が始まり、8時頃には体が抜けきって羽化が終わります。

（4）指導対象：全学年の児童の参加希望者とその保護者

3．準備するもの

（1）実施日の2週間ほど前に、学校長名で保護者にお便りで連絡し、参加者を募ります。

（2）観察場所の選定

樹木の周りが踏み固められて草がなく、子どもが活動しやすい場所を選びます。

セミの幼虫が出てきた穴が、ぼつぼつ開いていることを確認できる所がよいでしょう。

真っ暗でなくてもセミは羽化を始めますが、街灯がついているところの方が安全管理上よいでしょう。

（3）保護者、学校長への連絡

夜のことで、保護者の同伴は不可欠です。学校長の承認がなければ万一の時、対応が困難になる場合が生じます。

4．学習の進め方

（1）まだ、明るいうちから集合し、参加者を確認の上、子どもの管理を保護者に任せます。

（2）観察の方法や注意を説明します。

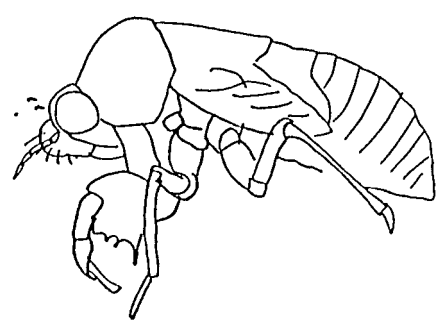
- ・セミの幼虫に絶対触らない。もちろん採集もしない。
- ・必要以上に強い光を当てない。
- ・枝をゆすったり、その他の刺激を与えない。など

（3）記録、メモなどはとらないで、じっくり見ることをすすめます。

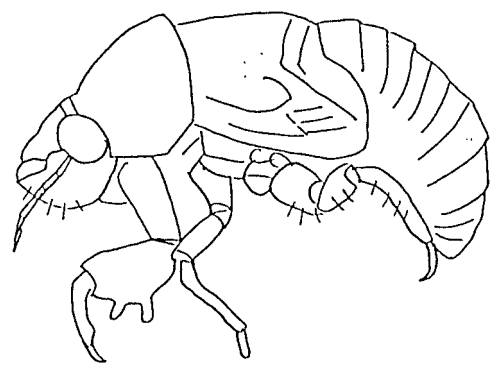
(4) 帰宅するときには、先生に一声かけてからにしてもらいます。

資料

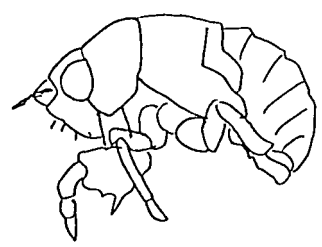
和歌山で見られる一般的なセミの抜け殻とオスとメスの違い



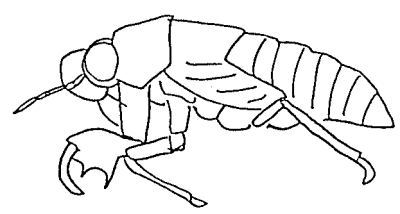
アブラゼミ



クマゼミ

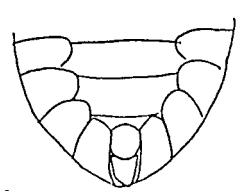


ニイニイゼミ

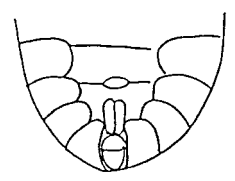


ツクツクボウシ

抜け殻だけでもオスとメスの区別がわかります。
腹からみて、腹の先を観察してください。



オス



メス